

contents

- ・2019年度診療部門の組織改編
- ・診療科紹介

- ・2019年4月就任教授紹介
- ・大型連休期間の診療報告
- ・禁煙外来開始
- ・2019年度前期講演会



編集：杏林大学医学部付属病院
〒181-8611 三鷹市新川 6-20-2
Tel 0422-47-5511（代表）
<http://www.kyorin-u.ac.jp/hospital/>

2019年度診療部門の組織改編

【消化器・一般外科】

診療体制を充実させるため、上部消化管外科、下部消化管外科、肝胆膵外科の3診療科体制になりました。3診療科の密な連携体制を保ちながら、より高度な専門的診療を提供致します。

＊診療科長 上部消化管外科：阿部展次教授、下部消化管外科：須並英二教授、肝胆膵外科：阪本良弘教授

【放射線科】

診断部門と治療部門が分化し、放射線科、放射線治療科となりました。

＊診療科長 放射線科：横山健一教授、放射線治療科：江原 威教授

診療科紹介

◆ 高齢診療科

高齢診療科では、加齢に伴って増加する様々な疾患（生活習慣病、心不全、認知症、骨粗鬆症など）の“管理”を行っています。なぜ“管理”かと言えば、完治を目指すよりも、病気と上手に付き合いながら毎日の生活を満足して送っていただくことを目標としているからです。

当科の入院症例の多くは1・2次外来などを経由した即日入院です。そして、ほぼすべての症例は複数の疾患を合併しているため（心不全を合併した肺炎、脳梗塞のある発熱・脱水症、認知症のある誤嚥性肺炎など）、多疾患の管理が必要です。退院後は在宅復帰を目標としていますが、そのためには訪問診療や訪問看護をお願いしたり、場合によっては転院、施設入所をお願いするケースも多くあります。その意味で、高齢診療科は地域とつながった大学病院の診療部門と言えます。地域医療機関や医療関連施設との密接な繋がりを大事にしておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

◆ 麻酔科

手術患者さんを対象とした周術期麻酔管理、集中治療管理、癌性疼痛緩和ケアを行っています。当院の周術期管理センターは、術前・術中・術後を通して、安全で質の高い周術期管理を行っています。医師、看護師、歯科医師・衛生士、薬剤師など、多職種が連携を取りチーム医療を実践しています。2018年には術後疼痛管理チームを立ち上げ術後疼痛緩和に取り組んでいます。また、中心静脈穿刺、末梢神経ブロックなどの危険度の高い手技において超音波装置を利用し、医療安全向上に取り組んでいます。

集中治療室（ICU）では、集中治療専従医と各科の主治医が協力して集中治療管理を行っています。

緩和ケアは癌性疼痛に対し緩和ケアチームが診療を行います。患者さんやご家族の話を聞き、痛み・息苦しさ・吐き気などの苦痛や、不安など心の苦痛を和らげるお手伝いをしています。今後も医療機関の中央部門として患者さんのQOL向上に努めて参ります。

◆ 救急科

当院は高度救命救急センターを有し、多摩地区の最後の砦として24時間体制で重症と判断された患者さんの診療にあたっております。心肺停止、重症多発外傷、広範囲熱傷、敗血症、中毒をはじめとした様々な疾患を専門としていますが、これらの重症患者さんは多分野の集学的な治療が必要となり、各診療分野の研鑽を積んだ救急医が一枚岩となって患者さんの診療にあたっています。また、「救命すること」に留まらず、救命した上で患者さんが「社会復帰」することを目標とし、初期診療の段階から機能的予後を見据えた治療を心がけています。そのためにも大学病院としての立場も踏まえ、救急医学の研究を行いながら最先端の救急治療を探究しています。

また、災害時に現場で活動するDMATや、東京消防庁の救急隊指導医としてのメディカルコントロール、院内における二次心肺蘇生法の指導など、病院診療以外の活動も行い、救急医療の発展に貢献できるように日々奮闘しております。

2019 年 4 月就任 教授紹介



(教授)

糖尿病・内分泌・代謝内科

やすだ かずき
安田 和基

東京大学医学部 卒業 博士 (医学)

東京大学医学部附属病院、東京女子医科大学糖尿病センター、米国シカゴ大学生化学研究員、朝日生命糖尿病研究所、国立国際医療研究センターなどを経て、平成 31 年杏林大学着任

糖尿病・内分泌疾患は、患者さんの病像・病期や生活習慣などにより個別化した医療が必要になります。また全身の臓器が関連し、多くの診療科や多職種のスタッフのご協力、さらに地域での医療連携が不可欠です。

きめ細く質の高い医療を目指しますので、今後とも皆様のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。



(臨床教授)

放射線治療科

となり あやこ
戸成 綾子

杏林大学医学部 卒業 博士 (医学)

杏林大学病院、都立府中病院 (現 多摩総合医療センター)、東京通信病院、川崎幸病院、米国 FROG 放射線治療施設を経て、平成 23 年杏林大学着任

世界各国で実施されるがん治療の情報が瞬時に患者のもとに届くようになった現在、被爆国である日本人の放射線治療に対する印象は一変し、その認識と期待は激変しました。

放射線治療に関する最新鋭の治療機器が設置されている当科への期待の大きさに重圧を感じつつも、治療対象も拡大し、様々な患者さんの診療に、より一層お役に立てるよう努力して参ります。ご支援よろしくお願い致します。



(臨床教授)

心臓血管外科

ほそい ゆたか
細井 温

東京大学医学部 卒業 博士 (医学)

東京大学医学部附属病院第一外科、同血管外科、英国 Imperial College research fellow などを経て、平成 14 年杏林大学着任

近年の高齢化に伴い、腹部大動脈瘤や静脈血栓塞栓症などの血管疾患は増加傾向にあります。その治療法は血管内治療の発展と共に長足の進歩をとげています。この領域でさらに質の高い医療を提供できるよう努力する所存でございますので、引き続きご指導ご鞭撻の程宜しく申し上げます。



(臨床教授)

皮膚科

みずかわ よしこ
水川 良子

杏林大学医学部 卒業 博士 (医学)

杏林大学病院、公立阿伎留病院 (現 阿伎留医療センター) などを経て、平成 10 年杏林大学着任

アトピー性皮膚炎、薬剤アレルギーを中心としたアレルギー性疾患を中心に診療を行っています。近年、皮膚疾患の治療は新しい治療選択肢が増えていますが、皮膚科ならではの外用療法の指導を含めた新旧の治療の良い部分、個々の患者さんに見合った治療を選択できるよう尽力して参ります。

大型連休期間の診療報告

当院では、4 月 28 日 (日) から 5 月 6 日 (月) の大型連休期間に、3 日間外来診療を実施致しました。

●一般外来患者数

4 月 30 日 (火)	5 月 1 日 (水)	5 月 2 日 (木)	合計
1,710 人	1,530 人	1,421 人	4,661 人
(内 初診 226 人)	(内 初診 206 人)	(内 初診 190 人)	(内 初診 622 人)

●救急外来患者数

4 月 28 日 (日) ~ 5 月 6 日 (月) 9 日間: 合計 1,335 名

禁煙外来 開始

3 月から禁煙外来を開始しました。

当院に通院している患者さんと、保険診療適用者が対象となります。

予約制のため、希望者はまず主治医にご相談ください。

診療日時: 月曜 午後 1 時 30 分 ~ 2 時 30 分

木曜 午後 3 時 ~ 4 時

問 合 せ: 呼吸器内科 外来

TEL 0422-47-5511 (内線 5414)



2019 年度前期 杏林大学公開講演会 (医療系)

日時・会場	テーマ・講師
6/8 (土) 10:30-12:00 杏林大学 井の頭キャンパス	高齢者も楽しめるポッチャを体験してみよう!! 保健学部 理学療法学科 准教授 一場友実
6/22 (土) 13:30-15:00 杏林大学病院	高齢者の腰痛 - 坐骨神経痛、腰曲がり 医学部 准教授 細金直文
9/28 (土) 10:30-12:00 杏林大学病院	最新の褥瘡予防と治療 床ずれ: 褥瘡を在宅で作らないために 医学部 教授 大浦紀彦

参加費・予約不要。

※ 6/8 の回は、事前申込み制です。

定員: 50 名 申込期限: 6 月 5 日 (水)

申込先: koho@ks.kyorin-u.ac.jp または FAX 0422-44-0892

記載事項: 参加人数、氏名、電話番号



2019 年度前期 がんセンター公開講演会 「がんと共にすこやかに生きる」

日程	テーマ・講師
6/15 (土)	女性のがんと遺伝 医学部 教授 小林陽一
8/3 (土)	がんと栄養 - がんと付き合っていくためのポイント 杏林大学病院 栄養部 副部長 塚田芳枝
9/7 (土)	がん薬物療法と副作用対策 - 皮膚症状 杏林大学病院 薬剤部 臼井浩明

時間 13:30-14:30 (講演会)

14:45-15:45 (がん患者の方限定、話合いの場)

会場 杏林大学病院 第 2 病棟 4 階 大学院講堂

参加費・予約不要。お気軽にご参加ください。